

# 経済 TOPICS

No. 230

(2024年4月25日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費や設備投資に持ち直しの動きがみられるものの、生産や輸出が弱めの動きになっていることから、回復の動きが足踏みしている。消費者物価は、生鮮食品を除く食料価格のプラス幅が縮小していることなどから、全体としての上昇幅は縮小している。この間、能登半島地震や海外での軍事紛争の拡大に伴う影響が懸念されるなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産が横這い圏内の動きを続けるなか、個人消費や設備投資が底堅く推移し、雇用のタイトな状態が続いていることから、全体としては緩やかな回復を続けている。消費者物価は、下げ止まりの状態が続いている。

### （参考）物価動向

〈日本〉 エネルギー価格が落ち着くなか、生鮮食品を除く食料価格のプラス幅が縮小していることなどから、全体としての上昇幅は縮小している。

〈米国〉 食料やエネルギー価格が鎮静化するなか、人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続いていることから、全体としては下げ止まりの状態が続いている。

（注）本稿は、4月19日時点で取得可能なデータに基づき作成。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング